

能登高校として初 県高校総体を制して インターハイの舞台へ



「テニスの町」の伝統を受け継ぐ

能登高校ソフトテニス部

石川県高校総体（ソフトテニス）の入賞歴
宇出津水産高・宇出津高・能都北辰高・能登高

年度	男子	女子
昭和31		
32		
33		
34		
35		
36	優勝	
37		
38		
39		
40		
41		
42	優勝	
43		
44		
45	優勝	
46	優勝	
47	3位	
48	3位	
49	優勝	
50	優勝	
51	優勝	
52	優勝	
53	優勝	
54	優勝	
55	優勝	
56	優勝	

宇出津高

宇出津水産高

↑昭和41年、宇出津水産高の普通科を分離し宇出津高が発足

築かれた伝統

能登高校ソフトテニス部は、宇出津高校、能都北辰高校の伝統を受け継ぐ。その礎は昭和45年から15年間、宇出津高校を指導した故山田良平先生によって築かれた。

宇出津高校の黄金時代

「能登から日本一の選手を育てたい」

昭和45年、宇出津高校ソフトテニス部の専属コーチとなった山田良平先生は「日本一」の目標を掲げて「鬼の山田」となった。

地元中学校からも才能ある選手が集まり、以後15年間で石川県高校総体男子団体10連

覇、女子6連覇を達成。インターハイでは、昭和51年に団体3位、54年には個人優勝を成し遂げ、宇出津高校の黄金時代を築きあげた。

テニスバカになるな

山田先生は大正9年旧鶴川町で生まれ、豊島師範学校（現東京学芸大学）に進学。在学中はテニスに熱中し、東日本大会をはじめ多くの大会で優



昭和54年、滋賀県で開催されたインターハイで優勝し、日本一となった刈崎満選手（左）・石田茂樹選手と握手を交わす山田先生。10年目の悲願達成だった。

勝したという。

戦後、故郷に戻り中学校の教員となるが、体調を崩して退職。書籍・スポーツ用品店を営みながら地元中学生を指導していた。

山田先生の口癖は「テニスバカになるな」。子どもたちには、テニスだけではなく勉強にも力を入れさせ「テニスを通じた人間づくり」を目標に掲げていた。

テニスの未来を見守る

昭和58年に完成した能都健民テニスコートは、山田先生の「能登でインターハイを」

という願いの結晶だった。

大会誘致の先頭に立ってきた山田先生だったが、昭和60年に肺がんのためその生涯を閉じた。半年後、健民コートで開催されたインターハイで、宇出津高校ソフトテニス部が山田先生の遺影を掲げ奮闘したことは、今も語り草となっている。

インターハイ終了後、山田先生を顕彰しようと多くの寄付が集まり、16面のコートサイドに銅像が建立された。

山田先生は今でも、健民コートで日本一を目指す選手たちを見守っている。

年度	男子	女子
昭和57	優勝	
58	優勝	
59	2位	
60	優勝	
61		3位
62		
63		
平成元		2位
2		2位
3		2位
4		2位
5		
6	2位	
7	2位	
8	3位	3位
9	2位	3位
10		2位
11	優勝	優勝
12		優勝
13	2位	優勝
14	優勝	2位
15	優勝	優勝
16	3位	3位
17	3位	優勝
18	3位	優勝
19	優勝	
20	3位	
21		2位
22		3位
23		3位
24	優勝	3位

能都北辰高

能登高

↑平成12年、水産高と宇出津高が統合して能都北辰高が発足

↑平成21年、能都北辰高と能登青翔高が統合して能登高校が発足

部員数1からの優勝

6月2日、男子ソフトテニス部が能登高校として初めて県高校総体を制し、インターハイ出場を決めた。2年前、部員数が1人という状況からの優勝。能登高校としての新たな伝統が脈打ち始めた。

厳しい戦い

「五分五分の勝負。町の人の期待に応えることができず、ほっとした」

男子ソフトテニス部を指導する米澤真琴先生は、優勝が決まった瞬間の気持ちをこう振り返った。

5月31日から6月2日にかけて、能都健民テニスコートで開催された平成24年度石川県高等学校総合体育大会（県高校総体）ソフトテニス競技に、能登高校男子は第4シード、女子は第3シードとして出場。能登高校としての初優勝、そしてアベック優勝が期待されていた。

勝、そしてアベック優勝が期待されていた。

先に行われた個人戦では、男子で大屋・寺尾ペアと屋敷・新ペアが3位、女子の河村・山下（藍）ペアが準優勝という結果でインターハイ出場を決めた。

迎えた団体戦。男子、女子それぞれ準決勝まで順当に勝ち上がった。準決勝の相手は共に金沢学院東高校。男女共に個人戦優勝ペアを擁する強豪校だ。

「厳しい戦いになることを想定して準備をしてきた」と話す米澤先生。選手らの精神

面も含め、今大会に照準を定めてさまざまな準備をしてきたという。

今大会、男子第1シードの金沢学院東とはこれまで、新人戦、インドア大会共にファイナル勝負という厳しい戦いを繰り広げてきた。結果は2-1で勝利。決勝の相手は、小松市立高校に決まった。

この日、健民コートの応援席には、たくさんのOBや地域住民が詰めかけていた。「これだけの人に見てもら

えることはめったにないこと。応援してもらえ、喜びを感じながら試合しよう」

決勝戦前の円陣で米澤先生は選手らにこう話しかけた。

2試合同時進行で行われた決勝戦。大屋・寺尾ペアに続いて下島・仙福ペアも勝利し、5年ぶり通算19回目、能登高校として初めての県高校総体優勝旗を手にした。

「いつも練習している16面コートと応援が、選手たちの

背中を押してくれた」

米澤先生は、感謝の言葉で喜びをかみしめた。

力を出し切った女子

女子団体準決勝は0-2で敗退。3位となったが、北信越大会出場決定戦で第1シードの七尾高校に勝利。北信越総体出場を決めた。

「女子は新人戦で負けていた七尾高校に勝つなど、強い気持ちで戦い、自分たちの力を出し切ることができて良かったと思う。北信越は1、2年生にとって良い勉強の機会。行くところではないですが大きく違ってくる」と振り返る。

2年前の新人戦では、部員数が足りずにマネジャーを団体メンバーに加えていたという女子ソフトテニス部。5年連続3位以上に入賞していた歴史を途絶えることなく、後輩たちにバトンを渡した。

部員数1から

2年前は女子も男子も部員数が少なかった。特に男子は当時の3年生が引退したあと

能都健民テニスコートで白球を追う能登高校ソフトテニス部の選手たち。試合会場で練習ができることも大きなメリットの一つ。



の部員数は1年生1人。後輩が入部するまで、女子に混じって練習を続け男子ソフトテニス部を守り抜いたのが、唯一の3年生で主将の新幸恭君（しんこうのり）だ。

「中学時代は県大会でいつも一回戦負けでした」と話す新君。能登高校での指導、新君の能力と努力が新君を県内トップクラスの選手として引き上げた。

新君の後に続く1、2年生は地元能登町のほか、珠洲市、輪島市、穴水町、七尾市からも集まっている。今後の成長が楽しみだ。

新たな歴史を刻む

6月17日、福井県越前市で開催された北信越総体で、能登高校は男子団体が優勝、女子が3位入賞を果たした。

県大会、北信越と能登高校ソフトテニス部の歴史に新たな1ページを刻み続ける選手たち。その最大の舞台となるインターハイ「2012北信越かがやき総体」は8月、新潟市で幕を開ける。



6月17日、健民コートに鶴川中学校出身で、関東の大学で活躍する堂野貴寛さん（明治大）、道下直人さん（中央大）、寺下洗平さん（明治大）の3人が訪れた。6月12日まで金沢市の西部緑地公園で開催されていた「第67回東日本学生ソフトテニス選手権」出場後に帰省した。堂野さん（写真右）はこの大会の男子ダブルスで優勝。大学トップレベルの技術を後輩たちに披露し、高校生、中学生を交えて練習試合を行った。写真は堂野さんに教えてもらう大屋君（左）と寺尾君。テニスの町ならではの光景だ。



能登高校の練習は必ず午後7時まで。次代を担う中学生との合同練習も積極的に行っている。



岩本千咲
いわもと・ちさき
普通科1年(穴水中出身)



山下杏奈
やました・あんな
普通科2年(上野台中出身)



山下藍里
やました・あいり
普通科2年(鶴川中出身)



小杉紗代
こすぎ・さよ
普通科2年(鶴川中出身)



大屋健一
おおや・けんいち
普通科2年(鶴川中出身)



新木慎太郎
あらき・しんたろう
普通科2年(穴水中出身)



新 幸恭 (主将)
しん・ひでのり
地域創造科3年(緑丘中出身)

能登高校、そして能登町が誇る施設でソフトテニスに青春をかける部員たち。

自分自身への Message



宮野理沙
みやの・りさ
地域創造科1年(緑丘中出身)



槻 夢袈
けやき・ゆめか
地域創造科1年(能都中出身)



角 友利香
かど・ゆりか
地域創造科1年(能都中出身)



松井亜未
まつい・つぐみ
普通科1年(緑丘中出身)



屋敷雄太
やしき・ゆうた
地域創造科2年(東陽中出身)



宮野悠希
みやの・ゆうき
地域創造科2年(緑丘中出身)



下畠雅大
しもはた・まさひろ
地域創造科2年(鶴川中出身)



寺尾和真
てらお・かずま
普通科2年(御祓中出身)

【顧問】米澤真琴・向峠増観・今田拓伸・川原智恵子・北野友理子

「能登から日本一」「テニスバカになるな」。テニスを通して人間性を高める山田良平先生の教えを、自分なりに継承して伝えていきたい。

能登高校ソフトテニス部は、充実した施設、町や地域の協力、熱心に指導してくれるジュニアがあって成り立っています。宇出津高校の伝統というよりも「テニスの町」の伝統が大きいと感じています。

ほかの高校と比べて大きく有利な点は施設です。生徒たちは試合会場でも毎日練習し、冬場も WAVE でラケットを振ることができる。ハード面の充実が日本一の高校です。

いつも健民コートで見っていますが、ラケットを振っている小中学生が能登町の財産だと思います。能登高校も地元の子どもたちが入ってくれば強くなります。小中学校でしっかりと指導してくれる指導者のおかげです。

私が生徒たちにいつも言っているこ

とは「練習内容はどこも同じ。試合で力を出せるか出せないかは私生活が大事だ」ということです。

試合で勝つためには、最後の最後に「我慢する力」が必要です。それは、練習だけではなく、生活の中で身につくもの。生徒たちには、まず服装や礼儀から厳しく指導しています。

山田良平先生が教えてくれた「テニスバカになるな」「テニスは人間性を高めるための修行」などの意味は、今思うと大事なことだと実感しています。山田先生の教えを、自分なりに継承して今の生徒たちに伝えていきたいと思っています。

目標は「能登から日本一」。能登高校から「日本を代表する選手」が育ってほしいと夢見ています。



能登高校 男子ソフトテニス部顧問
米澤真琴先生

宇出津高時代に青森国体3位。明治大学に進学し、全日本学生シングルス選手権優勝、全日本学生インドア選手権優勝、アジア学生選手権2位。全日本社会人選手権優勝。平成19年から能都北辰高に赴任。珠州市在住、51歳。



河村奈々 (主将)
かわむら・なな
普通科3年(能都中出身)



西田和志
にしだ・かずし
普通科1年(御祓中出身)



仙福和弥
せんぶく・かずや
普通科1年(鶴川中出身)



奥田朱里人
おくだ・しゅりと
普通科1年(穴水中出身)



北村陽子
きたむら・ようこ
普通科2年(松波中出身)



坂本真菜 (マネジャー)
さかもと・まな
地域創造科3年(緑丘中出身)



小坂ひかる
こさか・ひかる
普通科3年(能都中出身)



尾上真耶
おのうえ・まや
普通科3年(能都中出身)

総体を振り返って

個人的には、ミスが少なかったり、決められる時に決められたり、3年間で一番良い試合ができました。

チームとしても、みんな優勝しようという気持ちを一つにして戦えました。

優勝したときは、本当にうれしかったです。

インターハイに向けて

ずっと県総体優勝を目標に練習してきて、新しい目標ができました。県の代表として、一戦でも多く勝てるように頑張りたいと思っています。

全国大会は初めての経験です。声を出して、緊張せず試合を楽しみ、自分の中の最高のプレーをしたいです。

3年間を振り返って

テニス部に入るつもりで能登高校に来ました。部員が自分1人の時期があって、やめようとした時もありましたがテニスを続けて良かったと思っています。

総体を振り返って

OBや地域の皆さんが応援に来てくれたので、簡単に負けられない、恥ずかしい試合はできないと思いました。

個人的には満足できる結果ではなかったけれど、みんなで3位になってよかったです。でも目標は優勝だったので悔しい思いもあります。

3年間を振り返って

私はテニスがたくて能登高校に入りました。

最初は選手が5人しかいないので、団体戦に出るためにマネジャーを入れて試合したりしていました。今は後輩が入ってきて、みんな楽しく部活ができます。

能登高校のソフトテニス部は男子も女子も本当に仲が良く、楽しむときは楽しみ、やるときはやるという切り替えができる部員ばかりです。顧問の先生にも本当にお世話になりました。

ほかの学校では冬場に練習を十分できません。能登町に

能登高校でテニスを続けて本当に良かった。人生初めての全国大会を楽しみたい。

2年になると自分より強い後輩が入ってきました。負けたくない気持ちで、練習の時の声出しでも何でも、勝てるよう意識していました。

後輩は元気なので、1人の時に比べると、練習は本当に楽しいです。

伝えたいこと

米澤先生には、1年のときから3年間、ずっと迷惑をかっ飛ばしてました。それでもテニス部に在籍させてもらい、3年間面倒をみてくれてありがとうございます。

能登高校でテニスをやって成長することができ、本当に良かったです。

後輩たちには「テニスを楽しんでやってほしい」と伝えたいです。就職してもテニスを続けていきたいと思っています。

はWAVEや16面があって、とても恵まれた環境でテニスをすることができたと思っています。

小学3年から今までテニスを続けてこられたのは、いろいろな人の支えがあったからです。本当に感謝しています。

インターハイに向けて

去年のインターハイは勝てる試合を落ととして3回戦で負けました。今年は去年より一回でも多く勝ちたいです。ダブル後衛は守りに入ると負けです。インターハイでは

攻めるテニスをしたいと思っています。

後輩たちにメッセージを顧問の先生の話聞いて毎日ちゃんと練習すれば、県の大会で上位になれます。みんな頑張ってください。

とても恵まれた環境でテニスができました。いろいろな人の支えに感謝しています。

能登高校
女子ソフトテニス部主将
河村奈々
Kawamura Nana

能登高校
男子ソフトテニス部主将
新 幸恭
Shin Hidenori

